

Title	特集 : 20世紀のソヴェト農民と農村社会 : 序
Sub Title	Soviet peasants and rural society in the 20th century : preface
Author	崔, 在東(Choi, Jaedong)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2018
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.111, No.3 (2018. 10) ,p.215(1)- 217(3)
JaLC DOI	10.14991/001.20181001-0001
Abstract	
Notes	特集 : 20世紀のソヴェト農民と農村社会
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20181001-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

特集：20世紀のソヴェト農民と農村社会

崔在東*

慶應義塾大学経済学部および慶應義塾経済学会の援助を得て、2018年3月6日から7日にかけて静岡県伊東市の宇佐美にあるウィスタリアンライフクラブ宇佐美にてロシアから4人のソ連史研究者を招き、日露ミニコンファレンスを開催した。ミニコンファレンスではロシア側の研究者4人と日本側の研究者3人が1917年革命後のソヴェト農村社会と農業について研究報告を行った。本特集は報告論文のうち5本を集めたものである。

研究報告は主にロシア革命後の農村社会と農業問題を中心として行われたが、議論はロシア革命前帝政ロシアの農村社会と農業までにも広がり、さらにソ連邦崩壊の1991年以降から今日に至るまでの変化も含まれ、活発かつお互いに有益なものとなった。とりわけ、通史的な観点から見た、ロシアの伝統的農民共同体と協同組合そして集団農場（コルホーズとソフホーズ）との連続性、近代的農法の一つとして革命前から導入が試みられていた多圃制がロシア革命後のソヴェト政権の下でどのように扱われたのか、第2次世界大戦までの戦間期だけでなく、ソ連崩壊の1991年までの行方とその評価をめぐる議論は今後の共同研究につながる可能性を示した。さらに、ソ連崩壊後とりわけ2014年春のウクライナ侵攻に伴うアメリカを中心とする経済制裁が、近年のロシア農業にどのような影響を及ぼしているのかをめぐる新たな情報は示唆することが少なくなかった。

20世紀のソヴェト農民と農村社会はそれまで人類が歩んだことのない大実験の道に進まるを得なかった。社会主义国家の建設という前代未聞の実験は、出発の段階からソヴェト農民の大規模な犠牲を伴う数回にわたる悲劇となった。昨年（2017年）はロシア社会主义革命の100周年に当たる記念すべき年でもあった。世界的レベルで1917年ロシア革命の歴史的意味をめぐる議論が盛んになった。本特集に収録されているコンドラー・シン論文は、ロシア史研究の最先端に立っている研究者がどのような問題意識を有しているかを明瞭に示しているように思われる。ソ連崩壊後独立した多くの国ではかつてのロシア中心的歴史観に反発し、目下歴史の見直しが積極的に行われているため、歴史研究の状況は一層複雑化している。

* 慶應義塾大学経済学部
Faculty of Economics, Keio University

度重なる悲劇と劇的な変化の中でソヴェト農民はどのように生き残りを図り、どのような日常を送っていたのか。本特集に収められたコズノワ論文、奥田論文、ディモーニ論文、コルニーロフ論文、そして学会誌への投稿のため収録が見送られた日臺報告と崔報告も基本的には伝統的な研究史の中で注目されなかったソヴェト農民と農村社会の日常の新たな側面にまなざしを向けている。大半の論文はソヴェト農民史の中で最も研究が蓄積されているソヴェト初期の1920-30年代に集中しているが、コルニーロフ論文はソヴェト時代の全時期にまたがる変遷を追う視点に、また崔報告はロシア革命前の帝政ロシア時代からソヴェト時代に続く1世紀間における連続性を探求する視点に立っている。これらの新たな試みの積み重ねと国際交流を通じてソヴェト農民と農村社会の研究がより豊かになることを期待したい。

最後に、日露ミニコンファレンスの開催に支援を惜しまなかった慶應義塾大学経済学部および慶應義塾経済学会の皆様に感謝を申し上げる。また、『三田学会雑誌』への掲載にあたり労を取られた翻訳者の方々と編集委員に深い感謝の意を表したい。

〔日露ミニコンファレンスの概要〕

場所：ウイスター・アンド・ライフ・クラブ宇佐美

日時：2018年3月6-7日

論題：20世紀のソヴェト農民と農村社会

オープニングリマーク：

崔在東（慶應義塾大学経済学部）

一般報告：

- ・ Виктор Кондрашин, Актуальные проблемы аграрной истории России XX века
(ヴィクトル・コンドラーシン「20世紀ロシア農業史の焦眉の諸問題」)
- ・ Жаедонг Чой, Пожар/поджог в дореволюционной и советской деревне, 1842–1962
(崔在東「革命前とソヴェト農村社会における火事・放火：1842–1962年」)
- ・ Татьяна Димони, Дети как объект социальных преобразований в российской деревне 1917–1930 гг. на материалах педагогических обследований
(タチヤナ・ディモーニ「1917–1930年のソヴィエト農村における社会的改造の対象としての子ども：児童学的調査の資料によって」)
- ・ Хироши Окуда, Деревенские коммунисты и перевыборы сельсоветов, 1924–1927
(奥田央「村ソヴェト選挙と農村コムニスト：1924–1927年」)
- ・ Ирина Кознова, Общинная революция в крестьянских мемуарах по документальным свидетельствам 1920-х гг.
(イリーナ・コズノワ「農民の回想録に見る『共同体革命』：1920年代の文書証言による」)

- Хидаи Такэо, Советский Крестьянин и Колхозный Рынок в 1930-е годы
(日臺武雄「1930 年代におけるソヴェト農民とコルホーズ市場」)
- Геннади Корнилов, Сельская модернизация в России в XX веке
(ゲンナジー・コルニーロフ「20 世紀ロシア農村の近代化」)